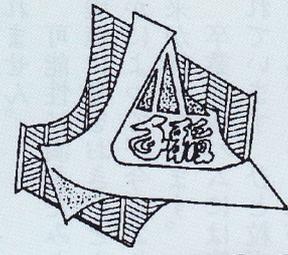


ていね



No.122

札幌手稲高等学校PTA広報誌



生徒会執行部



吹奏楽部



合唱部



ESS



家庭クラブ



ダンス同好会



卒業によせて

P T A 三年次副委員長 河野 裕子

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

三年間の高校生活も、もう終わりですね。高校生活はどうでしたか。バスや電車で通学したり、学校帰りにスーパーやファストフード店に寄ってみたりと、中学時代より少しだけ自由な毎日だったと思います。

でも、制服に身を固め、校則に縛られ、そしてほとんどの人が親元から通学していて、実は中学生の頃とあまり大きな変化を感じなかったのではないのでしょうか。

では、この先はどうでしょうか。親元を離れての一人暮らし。アルバイト。車の運転。海外留学する人も出てくることでしょうか。中学から高校に進学するのとは違った、大きな変化と新しい世界が皆さんの前に広がっているはずですよ。

人の成長を決定する要因の七割は経験だそうです。残りの三割は本から得たり、人から教えてもらう知識です。今までの皆さんは教科書や先生から与えられる知識で成長してきました。でも、これからの皆さんは、自らの経験で成長していきます。皆さんは少し大人になりました。今ま

でやりたくてもできなかったこと、憧れだけであきらめていたことに手を伸ばしてみてください。そうして皆さんが出会う出来事の一つ一つが、皆さんを変えていきます。

今を変えることは怖いことです。それに、どんなに頑張っても、成功する保証はありません。失敗することの方が多いかも知れません。

でも、皆さん、新しいことにチャレンジすることを恐れないでください。たとえチャレンジの結果が希望に沿わなかったとしても、皆さんが経験から学びとったことに無駄はありません。手にしたものがどんなに小さくても、そうしたことの一つ一つが、やがて皆さんを大きく成長させてくれると信じています。

偉そうに書きましたが、まずは新生活を楽しんでください。

終わりにになりましたが、三年間ご指導頂いた先生方、職員の皆様、そしてPTA活動にご理解ご協力頂いた保護者の皆様、本当にありがとうございます。これからも子供たちの成長を、温かく見守ってくださいますようお願い申し上げます。



手稲の水と空気の中で

三年次主任 齋藤 毅

二〇一二年四月九日、三十九期生が入学してからあつという間に三年間が過ぎ、いよいよ卒業の日を迎えることとなりました。私にとっては、君たちの主任として、同じ時間を共有できたことに感謝しています。

この三年間、心がけていたのは「年次生徒全員と面談すること」でした。少しでも君たちの側面に立つことができたことは私の教員生活の中でも貴重な三年間となりました。

手稲高校での三年間を皆さんは感情豊かに過ごすことができたのではないかと思います。体力、頭をフル回転したこの時期、仲間との経験や自分がひたむきにやったことは一生の宝となります。「継続は力なり」の基で学んだこと、出会った友、大切に。そして、この年次で言い続けてきた、「常に他者の気持ちを尊重し、一呼吸おいて、自分の気持ちを伝えよう」この気持ち、これから君たちの人生を豊かにすると信じます。

私たち三十九期生の担任団にとつて、卒業したからといって君たちとの関係がすぐにきれるわけではありません。何年か後に、君たちの成長

した姿を見ることを楽しみにしていきます。疲れたら、また手稲に……。保護者の皆様、学校、年次の教育活動にご理解、ご協力をいただき、ありがとうございます。各行事に積極的に参加いただいたことで、生徒たちにも「私は見守られている」という意識が芽生え、家庭内においてもよりスムーズなコミュニケーションがとれていたのではと思っております。これからもまだ保護者の皆さんのサポートが必要な年代です。これまで以上に幸せな、笑顔あふれるご家庭を築いていただくことを祈念します。

生徒、保護者、教職員が「手稲」という空間に身を置き、その水に染まり、いつの間にかその空気に馴染んだ、そんな三年間だったと思えます。

私たちも四月から君たちと同じく、新しい出会いが待っています。素直な気持ちを持ち続ける手稲高生と手稲の空気の中に身をおきます。



三年次担任から卒業生へのエール ～思い出の写真



前に進むこと
三年一組担任
伊勢 咲子

三十九期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

さて、これから皆さんはそれぞれ「一歩」を踏み出すことになりま。前に進むという事は、不安を伴います。先が見えないため、恐れもあるでしょう。しかし、前に進むことを恐がらないでください。諦めないでください。どんなに小さな一歩でも、前に踏み出すことはあなな方を必ず成長させてくれます。悩んでも、迷っても、壁にぶつかっても、その後にまた前を向いて進みます。さえずればいいのです。これからの人生において、皆さんが自分の足で、自分の道を、前に向かって進んでいくことを願っています。



「有志者事竟成也」
三年二組担任
朝倉 浩二

「諺」や「格言」はたくさんありますが、その言葉の本当の意味を理解するには時間がかかります。なぜかという、その「諺」が真理であるという確信は知識としてではなく経験によって得られるものだからです。つまり、失敗することによってその「諺」が「真理」であることに気付くのです。



三十九期生の皆さん。ご卒業おめでとうござい
ます。
新たな人生のスタートです。大きな志を抱き失敗を恐れずこれからの人生を歩んでください。「有志者事竟成也」君たちならきっと自分の「志」を実現できると信じています。



酸っぱいレモンをもらったら
三年三組担任
渡邊 昭博

人生に挫折し自信を失ったとき、思い出してほしい。君たちは一人ひとりが、かけがえのない、価値ある存在だ。なぜなら君たち一人ひとりが、世界そのものだから。これこそ、カントのコペルニクスの転回の真の意味である。どんな時も、人生は光り輝く。君たちが望めば。



君たちが秘めている無限の可能性を自ら閉ざす言動をしがちだ、という事。まるで、幸せを拒むように。だから最後に、この言葉を贈ろう。「運命がレモンをくれたら、それでレモンードを作る努力をしよう」(D. カーネギー)



「かんじんなことは、目に見えない」
三年四組担任
井上 和義

フランス文学「星の王子さま」にでてくる有名な言葉です。今、この時も、また進路が決定しておらず、中期の受験準備に追われている人も多いかと思えます。人生の中で、人は何度か試験の時を迎えるものです。「受験」もその一つ。とくに高校生にとって「大学受験」は人生の方向性を決める大きな試験の一つだと思います。人は大きな試験に直面したとき、どうしても目先の結果に拘泥せざるを得ません。ひとつの価値観に集中するあまり、視野も狭くなりがちです。それは至極当然のことだと思います。だって、そのために努力しているのですから。しかし、大きな試験が終わってしばらくたち、精神的にも少し余裕が出てくると、試験に対してどう立ち向かっていたのか、実のところ大切なことだったと気付くものではないでしょうか。ひよつとすると人生とはその繰り返しなのかもしれません。



卒業おめでとう！「目に見える」結果はもちろん大事なことですが、それ以上の「かんじんなこと」を多く実感できる人生を！

合格体験記

受験を終えて



三年二組
熊谷さくら

私には小学校の頃から「どうしてだろう?」と思い、今だに解決できていない疑問があります。私はその疑問を解決するためにどうしても北海道教育大札幌校の特別支援教育専攻で学びたいと考えていました。そして、二年生の夏にオープンキャンパスで推薦の説明を聞き、チャンスが増えるなら、と推薦入試を受けることを考え始めました。そのためには平均評定を上げる必要があったので定期考査や課題の提出にはより一層力を入れました。

三年生になり学校内の推薦をもらった私はセンター試験の勉強と推薦の準備を並行して進めようと考えていましたが、そんなに簡単なものではありませんでした。自己推薦文を書くのに時間がかかり、センターに向けての勉強時間が確保できなくなり、模試の点数はどんどん下がりが、チャンスが一回増えるどころか全てのチャンスをつぶしてしまふのではないかと不安にかられました。

そんな状況下で私が最後まで頑張れたのは周囲の支えがあったからです。いつも応援してくれた家族や友人、遅い時間まで面接指導をして下さった先生方、時には厳しい言葉でいつも励ましてくれた担任の先生、ここには挙げきれない程たくさんの人に支えられ乗り越えることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

最後に一、二年生の皆さんへ。部活や習い事をしてる人、そのまま頑張り続けて下さい。最後まで頑張り抜いた根性や共に辛い練習を乗り越えた仲間、受験勉強で辛いとき必ずあなたを助けてくれます。部活や習い事でなくてもいいので何かを一生懸命頑張ってみて下さい。頑張り方を知っているか、知らないかは大きな違いがあります。頑張り方を知り、身につけることが受験準備の第一歩だと思えます。

伝えたいこと



三年五組
相川 遥菜

私が札幌市立大学看護学部の推薦入試を考え始めたのは、三年生になつてからでした。一つでも多くチャンスを得られるのなら、という気持ちできっかけとなり、推薦入試を受けることに決めました。

入試内容は「小論文」と「面接」があり、事前に「志望理由書」の提出もありました。中でも私が苦戦したのは小論文です。小論文は学科試験と違い、模範解答がありません。私は今まで一度も小論文を書く機会が無かったため、小論文の難しさに何度も挫折しかけました。しかし、先生方の協力のおかげで、構成や意見のまとめ方が徐々に分かるようになりました。面接では、一冊のノートを作り、面接指導の先生に注意された点や質問、自分で考えた改善点をまとめ、次に生かせるような努力をしていました。

これらの対策は、センター対策と並行で行っていたため、簡単なことではありませんでした。朝のSHR前と昼休みに小論文の添削、放課後は面接練習、その後六時半まで学校

で勉強をし、帰宅後は小論文と志望理由書の書き直しと勉強という睡眠時間を削るような毎日でした。そんな辛い時期を私が乗り越えられたのは、支えてくれた家族や友人、先生方がいたからだと思っています。本当にありがとうございました。

一、二年生に伝えたいことは、まず定期テストを重要視すること、つまり普段からの積み重ねです。推薦入試は大学側からの評定平均の条件をクリアしなければ、受験資格すら持てません。また、部活動等の経験も大切です。私は部活動や所属していたボランティア団体での経験が面接や志望理由書に繋がりました。要は自分が成長したと胸を張って言えるような経験が武器になるのです。

校内推薦から推薦入試までは日にちが限られています。その中でどれだけ必死になれるか、そしてどれだけ力をつけられるかが合格への鍵だと思います。これは一般入試にも言えることです。努力を惜しまず、楽しい高校生活を送ってください。



広報委員会の活動を振り返って

広報委員長 小西 孝子

昨年の四月より広報誌の編集に携わってまいりました。PTA広報誌「ていね」は、それぞれの学期毎の学校行事・時節の話題などを、コンパクトに保護者の皆様にお知らせする冊子です。今年も無事に年三回発行することができました。寄稿文のご依頼やお写真のご提供に、ご協力をいただいた皆様本当にありがとうございました。

「ていね」にご投稿いただいた原稿を読ませていただいたり、編集会議で先生方や役員の皆様の考えをお聞きしたりするうちに、私自身のもの見方・考え方が広がった気がいたしました。

また、本校の一年間が、子供たちの一所懸命な努力と、それを支え励ましていただいた先生方、保護者の方々の姿に接する日々で、この学校が我が子の学舎であることを本当に誇らしく思っております。

私も子供と共にこの活動から「卒業」させていただくこととなりましたが、広報委員会活動に参加させていただいたことに感謝申し上げますと共に、本校の在校生、卒業生、先生方、そして保護者の皆様を

ますのご発展をお祈り申しあげます。

あと一年

PTA二年次委員長 鴨志田美香子

あと一年で我が子の高校生活が終わりです。そして十三年間続けてきた私のPTA活動も、あと一年となりました。小学校の時には小学校での顔、中学校の時には中学校での顔・・・それぞれより多くの時間をPTA活動させていただくことで、子供たちと共有することができました。そして手稲高校でも、学校祭での楽しそうな様子、球技大会やマラソン大会で頑張っている姿を見ることができ、子供たちと同じ時間を過ごすことができたことを、とてもうれしく思っております。また、

これまでのPTA活動を通して、たくさんの保護者の皆さんと知り合うことができました。『まず第一に楽しいPTA活動であること』という思いで続けてきましたが、その思い通り楽しい活動で、どこの学校でも素敵なお母さん方との出会いがあり、今でも友人であり私の宝となっております。

手稲高校は、PTA活動にとっても協力的で、先生方もどんな時でも熱心で親切です。大変感謝しております。

す。

私もあと一年、無理せず子供たちを見守りながら、PTA活動を通して、学校のお役に立てることを探していきたいと思います。

「生きる」という事

PTA一年次委員長 石亀 泉

阪神淡路大震災から二十年。手稲高校に通う子供達が生まれる前の子供達はピンと来ないかも知れませんが、東日本大震災は心に残っている事と思います。今年の三月十一日で丸四年という歳月が流れようとしています。

震災から二年後、中高生に向けて「被災地を訪れる」という企画が新聞社で行われ、息子が中二の時に参加させて頂き、陸前高田や大川小学校など訪れました。二年たつてもまだなお焼け野原のような街、仮設住宅での暮らし、そこに生きる人々も見て来ましたが。家族を亡くし辛い思いがありますが、復興に向けて多くのボランティアの方々協力も有り被災された方の生きようとする姿も見て来ました。「生きる」という事、辛い時苦しい時もあるかも知れませんが「生きる」という素晴らしさを忘れないで欲しいと思います。そして人の痛みを分かる人、困っている

人に手を差し延べられる人になって欲しいと思います。

年次委員長という仕事をする中で手稲高校の子供達の素直さや行事に取り組む頑張りを一年間見て来ました。球技大会、学校祭、マラソン大会など通じていろんな経験を重ね、その中で心も育っていきます。継続は力なり」という校訓と共に子供たちの今後の活躍を期待し、これからも見守って行きたいと思えます。

サイクルセーフティラリー・イン・ていね 最優秀校

「サイクルセーフティラリー・イン・ていね」の最優秀校として本校が手稲警察署から表彰されました。これは、手稲区内の大学・高校が自転車の安全利用や事故防止についてゾーン中の事故件数やルール違反の指導件数を点数化して競うものです。

平成二十六年度は自転車の事故も少なく利用状況も良好でしたが、中にはスマホを操作しながらやヘッドホンを見ながら乗車する生徒が見られました。今後さらさら交通安全に対する意識を高めてゆきたいと思えます。



お世話になりました

御勇退される 教職員の方々



校長

田川 芳紀

お世話になりました。

手稲高校に赴任する数年前、初めて北海道マラソンに挑戦しました。三十度を越える炎天下の中、何度も心が折れながら新川通りを走っていると、元気のよいブラスバンドの音色が聞こえてきました。その音色は手稲高校の前からで、生徒は汗だくになりながらも、笑顔を絶やさず演奏していました。その一途な姿に感動するとともに、「頑張れ！頑張れ！」というエールが聞こえてきたような気がします。こんな生徒のいる学校に勤務してみたいと思っていたところ、幸運にも異動することができました。

明るく、素直で頑張り屋の生徒、生徒のためなら努力を惜しまない教員集団、そんな学校を支えてくれる保護者の皆さんに囲まれて、充実した二年間を送る事が出来ました。

今、勤務を終えるにあたり、校長としての役割を十分果たせたかと思われる、答えに窮しますが、手稲

高校創設時の思いや願いは忘れずに学校経営にあたったつもりです。

今後は、応援団の一人としてエールを送り続けたいと思います。二年間、本当にありがとうございました。



専門主任

山本 昌子

『30分』の言葉

何事にも真剣で素直で真っ直ぐな手稲高生と、四季折々に姿を変え、目を楽しませてくれた手稲山を見ながら、最後の五年間を終えることが出来ました。

思い返せば、その時々、いろいろな場面において、沢山の方々と出会いお世話になりました。今こうして退職という時を迎えることが出来るのも、そうした沢山の方々の関わり合いの中で仕事を覚え、育てていただいたお陰であると感謝しています。

校訓「継続は力なり」好きな言葉です。魅力ある生徒と、真剣に生徒と向き合う先生方、手稲高校の更なる躍進を祈っています。ありがとうございました。

全国に向けて

「部活」

空手道部 主将 森谷 衣蒨

私たち空手道部は、男子個人形、男子団体形、女子個人組手において全道大会で優勝し、三月二十五日から二十七日に東京で行われる全国大会へ出場することになりました。

私たちは「全国出場」という目標を掲げ、日々アップから始まり、形の練習、組手の練習と限られた時間の中で一生懸命練習に励んできました。決して強豪とは言えない部活ですが、顧問の先生や、今年新しく就任された外部顧問の先生のお力もあり、このような良い結果を残すことが出来ました。

これからは、「全国制覇」という新しい目標を掲げ、今まで以上に意識を高めて練習に励み、全国に出場できない部員の分まで頑張りたいと思います。



六人で勝ちとった『金賞』

吹奏楽部

山内 都萌

私たちは、一月十二日に教育文化

会館で行われた、北海道管楽器アンサンブルコンクール札幌地区大会に出場しました。部活全体での演奏会の練習もあり、アンサンブルに専念することができなかったため、朝や昼も練習を重ねました。年末年始もスタジオを借りて練習したため、家族よりも一緒にいた感じがします。厳しい練習の中でも、誰一人として弱音を吐かず、みんなで『金賞』という目標に向かって努力し続けられたことは、一生の思い出になり、自信につながりました。そして『金賞』という素晴らしい賞をいただけただけにともちろん光栄ですが、六人全員でやり遂げられたことは、最高に嬉しかったです。来年は、全道出場を目指して頑張ってほしいと思います。応援して下さい。ありがとうございました。



編集委員

今年担当1年次
小林真紀
山田砂恵子
宮田美恵子
中村公彦先生
篠田和巳先生

